



## スクラップ発生量減少続く

スクラップの発生が、細まったまま早くも1年が過ぎ去ろうとしています。昨年7月をピークに相場は下がり続け、約4ヶ月で1/7まで下がりました。そこから徐々に値を戻してきていますが、それでもピーク比35%程度です。まあ、それでも絶対値で見れば、それほど安いという訳ではないのですが、肝心の数量が大きく減少しています。建築の停滞、工場の稼働率低下などスクラップの発生は、まだ70%程度までしか回復していません。スクラップの需要家である電炉メーカーも大幅に減産しており、低い所でバランスしている形となっています。弊社で取り扱っている鉄スクラップについては、輸出も継続して行っており、販売出来ないといった状況にはありません。輸出も大きな市況要因の現在では、為替が円高に振れてきているのが気がかりな状況です。

## アルミスクラップ市況

アルミの状況も、芳しくありません。やはり、政権が変わり、公共事業にストップが掛かっている事と、先行きの見えない中で、マンションなど住宅の販売低迷が大きな要因ではないでしょうか。また、需要家である自動車メーカーも国内販売は、エコカー減税もあり、やや持ち直していますが輸出関連がダメなので、結局生産台数自体は低迷しています。通常、住宅解体から発生するアルミサッシや、機械解体から発生するアルミスクラップは、アルミ二次合金といわれる溶解メーカーへと販売されAD12.1という合金に再生されます。そして、その主な需要は、自動車のエンジンなのです。現在では、3000ccといった大型のエンジンからハイブリット向けの1500cc程度の小型エンジンに主流が移っており、1台当たりのアルミ使用量は、減少しております。その上、生産台数も減っているとなれば、やはりアルミの需要は、弱いと言う事にならざるを得ません。しかし、スクラップの発生も少ないので、低位バランスとなっております。

## 1年を振り返って

昨年の急激かつ世界的な不況から1年以上が過ぎました。今年の年初は、先行きのまったく見えない状況でした。大手メーカーの在庫調整も継続しており、需要が蒸発したといわれたのもこの頃でした。しかし、ある程度の在庫調整が終わり、3月決算の目処がついた所から少しずつ動き始めました。各国の経済対策も動き始め、徐々にではありますが、需要も回復してきました。特に東アジア各国で鉄鋼生産が回復し、それに伴って輸出の動きも活発化してきました。夏を過ぎると中国の生産過剰問題が表面化し、市況は軟調推移となっております。為替も徐々に円高方向に進んでおり、輸出環境としては悪化しています。秋以降、輸出の新規商談がなかなか成立しないこともあり、また国内需要が低迷していることもあって、当面は軟調に推移するものと思われまます。

この1年で、当業界を含め、世界中が大きな打撃を受けた訳ですが、相場がどれだけ変動しようと、「限りある資源である金属を適正にリサイクルする」という社会的使命は、微動だにしないままです。今後、政権交代した事もあり、社会構造が大きく変わっていくかもしれません。少子高齢化社会に移行していく中で、箱物をどんどん作っていくという時代ではなくなっていくでしょう。それでも海外の大きな需要を取り込み成長していく事は、決して難しい事ではありません。隣国の韓国では、電炉の新設が目白押しです。当然スクラップに対する需要も出てきます。韓国の主な輸入先は、アメリカだと思いますが、デリバリーに時間が掛かる事もあり、日本のスクラップに対する期待も大きい様です。弊社も、国内の地場電炉に配慮すると共に、アジアの成長力を取り込んで行くことも、必要だと思っています。

弊社において、昨年の12月の初めに、不況によるリストラは一切行わない旨を全社員に表明しました。つまり、みんなでシェアしていこうという事です。それと同時に、徹底的に経費の削減を進め、物を大事にして欲しいというお願いをして来ました。その上で、一つ一つの仕事を丁寧に、地道に行う事もお願いして来ました。そうして作ってきた商品は、必ずお客様に支持されていきます。その繰り返しが、お客様の信用に繋がっていくのだと思います。結果的に社員にとって、それが自分の職場を守っていくという事です。

お蔭様で、弊社も徐々にではありますが、業績も持ち直してきております。まだまだ、日本経済も苦難の道だとは思いますが、外部要因は、あくまで外部要因であって、社内で出来る事もたくさんあると思います。不況を嘆く前に、自分の仕事を一つ一つ見直し、より良い製品作りをしていく以外にありません。

今年も1年間、皆様には大変お世話になりました。来年が、皆様にとっても良い年である事を祈念しております。本当にありがとうございました。